

生食モモ

川中島 白桃
 萌芽 3.22 展葉 4.20 開花始 4.20 満開 4.26 落花 5.4 硬核期(満開50~75日) 6.中~7.上 収穫盛 8.27

平年値(東根市羽入) 北村山農業技術普及課調査

| 散布時期 | 適用病害虫名 | 散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり) | 農業使用基準 | | 10aあたり 散布量 | 注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す | 散布日 (月/日) | 使用薬剤 | 使用 濃度 |
|---|---|--|--|-------------------------------|---------------------------|--------------------------|---|------|----------|
| | | | 収穫前 使用時期 | 総使用 回数 | | | | | |
| 3月下旬 (発芽前まで) | モモアカアブラムシ 縮葉病 せん孔細菌病 越冬病害虫 | 水 1. ハーベストオイル 2. トレノックスフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤 | (98ℓ) 50倍(2ℓ) 500倍(200cc) 10倍(10ℓ) | 発芽前 7日前まで 発芽前 | - 5回以内 - | 300ℓ | 1. 縮葉病防除の最も重要な時期なので、発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発病することが多いので枝先までむらなく散布する。 2. トレノックスフロアブルに替えて、オキシンドー水和剤80 1,000倍(発芽前~開花直前まで、5回以内)でもよい。 3. 石灰硫黄合剤の散布できない園では、カイガラムシ類幼虫対策として、アブロードフロアブル1,000倍(14日前まで、3回以内)を加用する。 | / | |
| 4月中~下旬(開花前) | ナシヒメシンクイ | ナシヒメコン | 10a当り100本を設置 | | | | 未結実園地にも設置する。詳細は2ページを参照 | | |
| 4月中~下旬 (開花直前) | せん孔細菌病 | 1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412 | 2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg) | - - | - - | 300ℓ | 1. せん孔細菌病対策として開花直前に必ず散布する。 | / | |
| せん孔細菌病対策についてはp10の果樹の耕作的・物理的防除技術一覧を参照する。 | | | | | | | | | |
| 5月上旬 (落花直後) | 灰星病、うどんこ病 せん孔細菌病 カメムシ類 モモハモグリガ ハマキムシ類 | 1. オンリーワンフロアブル 2. アグレプト水和剤 3. フェニックスフロアブル | 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g) 4,000倍(25cc) | 前日まで 60日前まで 前日まで | 3回以内 2回以内 2回以内 | 300ℓ | 1. アグレプト水和剤はおとう、ぶどうに登録がないので飛散させない。 2. 耐性菌出現防止のため、抗生物質の連用は避ける。 | / | |
| 5月中旬 | 灰星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 | 1. デランフロアブル 2. ウララDF | 600倍(166.6cc) 2,000倍(50g) | 7日前まで 14日前まで | 4回以内 2回以内 | 300ℓ | 1. コガネムシ類成虫が発生した場合、ウララDFに替えてモスピラン顆粒水溶液2,000倍(前日まで 3回以内)を散布する。ただし、殺虫剤解禁後とする。 | / | |
| 5月中~下旬 | コスカシバ | スカシバコンL | 10a当り40~100本を設置 | | | | 広域的に設置する。 詳細は2ページを参照 | / | |
| この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする | | | | | | | | | |
| 5月下旬 | せん孔細菌病 黒星病、灰星病 カメムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カイガラムシ類幼虫 | 1. デランフロアブル 2. テルスターフロアブル*1 3. アブロードフロアブル 4. (バイカルティ) *2 | 600倍(166.6cc) 3,000倍(33.3cc) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g) | 7日前まで 前日まで 14日前まで - | 4回以内 2回以内 3回以内 - | 300ℓ | 1. デランフロアブルはラ・フランスの登録は1,000倍なので飛散に注意する。果実に汚れが出る場合があるので乾きやすい時間帯に散布する。又、アブローチBIなどの濃速性着剤を加用すると薬害が発生する場合がありますので加用しない。 2. おとうの収穫が終わるまで飛散させない。 3. 心折れ(ナシヒメシンクイ)の被害は見つけ次第除去し処分する。 4. 殺ダニ剤は3~4日前に草刈りをしてから使用する。 | / | |
| 6月上旬 | 灰星病・黒星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ | 1. トノックスフロアブル 2. マイコシールド 3. ダントツ水溶液 4. (バイカルティ) *2 | 500倍(200cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g) | 7日前まで 21日前まで 7日前まで - | 5回以内 5回以内 3回以内 - | 400ℓ | | / | |
| 6月中旬 | 黒星病 灰星病 せん孔細菌病 アブラムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 ハダニ類 | 1. デランフロアブル 2. スカウトフロアブル*1 3. ダニコングフロアブル 4. (バイカルティ) *2 | 600倍(166.6cc) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g) | 7日前まで 前日まで 前日まで - | 4回以内 5回以内 1回 - | 400ℓ | せん孔細菌病発生時の対応(抗生物質=治療効果) マイコシールド 2,000倍 21日前まで 5回以内 バリダシン液剤5 500倍 7日前まで 4回以内 注) いずれも単用散布、他樹種に飛散させない。 抗生物質の連用は避ける。 | / | |
| 6月下旬 ~7月上旬 | せん孔細菌病 灰星病 黒星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ | 1. デランフロアブル 2. エクシレルSE 3. (バイカルティ) *2 | 600倍(166.6cc) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g) | 7日前まで 前日まで - | 4回以内 3回以内 - | 400ℓ | | / | |
| 7月中旬 | 灰星病ホモプシ腐敗病 せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類 (ハダニ類) | 1. オーシャイン水和剤 2. バリダシン液剤5 3. モスピラン顆粒水溶液 4. (バイカルティ) *2 | 2,000倍(50g) 500倍(200cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g) | 前日まで 7日前まで 前日まで - | 3回以内 4回以内 3回以内 - | 400ℓ | 1. カイガラムシ類、ハダニ類の多い園地ではモベントフロアブル2,000倍(7日前まで、3回以内)を加用する。 | / | |
| 7月下旬 | 灰星病 ホモプシ腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ ハダニ類 | 1. ベルクートフロアブル 2. ディアナWDG 3. マイトコーネフロアブル 4. (バイカルティ) *2 | 1,500倍(66.6cc) 1万倍(10g) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g) | 前日まで 前日まで 前日まで - | 3回以内 2回以内 1回 - | 400ℓ | 1. ベルクートフロアブルは、缶桃種、ル・レクチェに薬害のおそれがあるので、パレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)に替えて使用する。 | / | |
| 8月上旬~中旬 | ナシヒメシンクイ | ナシヒメコン | 10a当り50本を設置 | | | | 1. 高温で推移した年で晩生種を栽培している園では、追加設置する | | |
| 8月下旬 | 灰星病、炭そ病 黒星病 ホモプシ腐敗病 モモハモグリガ ハマキムシ類/シンクイムシ類 | 1. ナリアWDG 2. エクシレルSE 3. (バイカルティ) *2 | 2,000倍(50g) 5,000倍(20cc) 1,000倍(100g) | 前日まで 前日まで - | 2回以内 3回以内 - | 400ℓ | 1. ナリアWDGはル・レクチェの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2. 収穫前に除袋する品種は、除袋直後に防除を行う。 | / | |
| 9月上旬 | 灰星病 シンクイムシ類 | 1. ロブラール500アクア 2. アーデントフロアブル*1 3. (バイカルティ) *2 | 1,500倍(66.6cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g) | 前日まで 前日まで - | 3回以内 3回以内 - | 400ℓ | | / | |
| 9月中旬 (晩生種のみ) | 灰星病、炭そ病 シンクイムシ類 モモハモグリガ | 1. ナリアWDG 2. ディアナWDG 3. (バイカルティ) *2 | 2,000倍(50g) 1万倍(10g) 1,000倍(100g) | 前日まで 前日まで - | 2回以内 2回以内 - | 400ℓ | | / | |
| 9月中旬~ 10月中旬 | コスカシバ | 1. トラサイドA乳剤 | 200倍(500cc) | 収穫後~ 発芽前 | 1回 | 400ℓ | 1. コスカシバの多い園は、収穫後飛散に注意して樹幹部にのみ散布する(単用)。樹幹処理は年間1回までなので注意する。 | / | |
| 収穫直後 | せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ | 1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412 3. スミチオン乳剤 1. ICボルドー412 2. ダントツ水溶液 | 2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg) 1,000倍(100cc) 30倍(3.3kg) 2,000倍(50g) | - - 3日前まで 7日前まで | - - 6回以内 3回以内 | 400ℓ | 1. 多品種により散布ができない場合、収穫した樹にできるだけ早く散布して対応する。 2. 次年度のせん孔細菌病対策としてICボルドー412は2週間間隔で必ず3回以上散布する。スミチオン乳剤を加用後、直ちに散布する。隣接する作物に付着すると汚れるので注意する。 | / | |
| 前回収布 から2週間後 | せん孔細菌病 | 1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412 | 2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg) | - - | - - | 400ℓ | | / | |
| 落葉直前 | せん孔細菌病 | 1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412 | 2,000倍(50cc) 30倍(3.3kg) | - - | - - | 400ℓ | | / | |
| 休眠期 | 越冬病害虫 | 1. 石灰硫黄合剤 | 10倍(10ℓ) | 発芽前 | - | 400ℓ | 1. 越冬病害虫対策と樹体保護の為に散布する。 | / | |

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

*1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。 *2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

生食モモ